

投球障害肩の診療 update

本特集「投球障害肩の診療 update」では、長い歴史をもつ野球において、投球障害肩が依然として多くの選手にとって長期離脱や競技継続の断念、さらには手術を余儀なくされる原因となっている現状を踏まえています。その背景には、投球障害肩のメカニズムに未解明な点が多く残されていることが挙げられます。そこで本特集では、発症要因から最新の診断技術、治療法、リハビリテーションに至るまで、現場で役立つ最新知見を体系的にまとめることを目的としました。

【発症要因】では、設楽先生が可動域、筋力、練習量などの危険因子について科学的に解明してくださいました。宮下先生には、近年全世代で話題となっている投球制限の効果について執筆していただきました。田村先生はゼロポジション外旋筋力と投球フォームの問題点との関連性について、発症予防の観点から実践的なエビデンスを明らかにしてくださいました。

【診断技術の革新】では、三好先生がAIを活用した動作解析の展望をご紹介くださいました。門間先生が4D-CTによる投球障害肩の病態把握について述べてくださいました。これらにより、従来困難だった病態の把握が可能となり、より精度の高い診療が期待されます。

【治療法のアップデート】では、志賀先生が関節内インピンジメントに対する鏡視下手術について解説してくださいました。船越先生には、前方関節包靱帯再建術(AGCR)についてご解説いただきました。宮武先生による末梢神経障害に対するハイドロリリースでは、従来の治療法で改善しなかった症例にも新たな可能性を示してくださいました。これは個々の選手に最適な治療選択肢を提供しようと考えます。

【リハビリテーションと競技復帰】では、野村先生がゼロポジション外旋筋力と肘伸展筋力と僧帽筋下部機能に着目した実践的プログラムの有効性を示してくださいました。また、田中先生には、肩甲帯機能改善戦略を通じて、競技復帰を見据えた体系的な支援策を提示していただきました。

本特集が、投球障害肩診療の新たなスタンダードを全国の臨床現場に届け、選手一人ひとりの競技人生を守る一助となることを強く願っています。各分野の第一線で活躍されている先生方の知見を結集し、現場で即実践可能な内容とすることで、投球障害肩診療の未来を切り拓く特集となることを目指しました。

(西中直也)